

湊江小学校 外国語・外国語活動研究通信

今年度9回目になる外国語・外国語活動研究は今年度の研究の振り返りを行いました。指導講評では、昨年度からご指導いただいている、外部講師より具体的にご指導いただき、研究を深めました。

研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～



<教育指導課 吉川 正 指導課長より>

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の中での取り組みだったが、教員が意欲的に取り組んでくれた。次年度以降も研究成果を足立区全体で共有して欲しい。

<教育指導課 齋藤 晃 指導主事より>

低学年と特別支援学級の授業を拝見させていただいて、とても勉強になった。今年度の研究成果を活かして、来年度は更なる授業力向上を目指して頑張りたい。

<各学年の研究の振り返り>

(1年)

- ・「どこにゴールを設定するか」を決めることができず、悩みながら外国語活動をスタートしたが、3年生の研究授業を参観し、「楽しみながら取り組むこと」が重要だと考え、実践していくことができた。
- ・数や色、挨拶などを日常生活に取り入れたことによって、自然と口から英語が出てくるようになった。
- ・金曜日のお昼の放送“English Friday”では、知っている単語を聞き取ることができるようになってきた。

(2年)

- ・学習指導要領では第3学年から始まるとされている中で、2年生では「知っている言葉を増やしていく」に重点を置いて、外国語活動をすすめていった。
- ・振り返りカードでは、ただ丸を付けるだけでなく、言葉で書かせたことで、どこに難しさを感じていたのかななどを明確に把握することができた。

(3年)

- ・エンドプロダクトを児童に示したことで、学習の見通しや意欲をもたせることができた。
- ・児童自ら英語を言いたくなるような場の設定や工夫を心掛けたことによって、日常生活でも英語を活用してコミュニケーションを取る場面が見られるようになった。
- ・教師自身が日本語での説明を減らしたことで、児童が聞き取った単語の中から活動内容を理解できるようになってきた。

(4年)

- ・「慣れ親しむ」ことに重点を置いたことで、児童が楽しみながら繰り返し発音することができるようになった。
- ・インフォメーションギャップを取り入れたことによって、楽しくいろいろな児童とコミュニケーションをとっていた。
- ・「聞く活動」より「話す活動」を多く取り入れることを意識した。話すことに自信をもち意欲的に取り組むことができる児童が増えた。

(5年)

- ・毎回授業でエンドプロダクトを確認したことで、課題が明確になり、言語活動が以前より増して活発になった。
- ・一番力を入れたのが中間指導。中間指導を意図的に入れることで、思いや考えを英語で伝えるのが苦手と言えなかった児童が既習表現や語句を使えば話すことができることに気付いたことで、児童同士の学び合いが活発になり、学びが深まった。

(6年)

- ・会話を続けるためのコツを分かりやすく提示したことで楽しく児童同士で会話することができていた。
「くり(繰り返し) し(質問) お(応答)」
「う(うなずき) ひよー(表情) ま(間) じ(ジェスチャー) 良(抑揚) き(強弱) 箸(速さ)(姿勢)」
- ・振り返りカードを書くときには「～だったから、次はこうしたい」と書くように示すことで、具体的な振り返ることができた。

(4組)

- ・「自分から言いたい」「活動したい」という意欲を高めるために、教科書に載っていないサイコロゲームを取り入れた。児童も楽しく活動でき、何度も“I like ~.” “Do you like ~.”を使って活動することができた。

〈指導・講評〉外部講師

必然性のある活動

- ・他教科と関連させて、身近な題材を外国語活動に取り込むことで、児童は単語を覚えるだけでなく中身にも興味をもち、自然に理解を深めていく。
- ・児童同士や教師と児童で情報交換をする必然性のあるインフォメーションギャップ活動を取り入れて外国語活動を行うことにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けることができ、伝わってうれしいと感じられる経験を積み重ねることができる。

絵本を使った指導

- ・絵本の良さについて

- ①ストーリーは児童の学習への動機づけを与え、学習意欲をそそる。
 - ②外国語とその文化や言葉の学習活動についての積極的な態度を育成するのに役立つ。
 - ③特にストーリーテリングはクラス全体の笑い・悲しみ・興奮・予感呼び起こすことができ、これだけではなく、児童の自信につながり、社会性、情緒的な発達につながる。
- ・絵本の読み聞かせは、児童の自発的な発話を引き出し、意味のやり取りを大切にしながら、英語の表現もさりげなく印象づけることができる。さらに、絵本の絵から情報を読み取り、状況を理解しながら児童は先生の話の聞くことになるため「聞いてわかる体験」をさせやすい。
 - ・外国語活動での絵本の読み聞かせは「表情豊かに」「時折質問を交えて」「次の展開を予測させつつ」を留意して行うとよい。

- ・絵本の選書視点 読み手が好きなもの 書評が高いもの 長く読み続けられているもの

評価について

- ・振り返りカードには記述があって素晴らしい。振り返りカードに記述があることによって、粘り強さや自己調整力、学びに向かう姿勢を読み取ることができる。また、記述があることによって、次の授業での見取りの視点を定めることができる。
- ・エンドプロダクトを実践しているので、事前に課題を明確にして、その課題に対するパフォーマンスをルーブリックと呼ばれる基準に沿って評価するパフォーマンス評価を取り入れてみるのもよい。
- ・評価は児童に点数を付けることが目的ではない。

⇒学習評価 改善の基本的な方向性

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていく。
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと。
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していく。